

大分市の人口

人口	287,667人	(+1390)
男	139,506人	(+792)
女	148,161人	(+598)
世帯数	85,251世帯	(+580)

毎月1日・15日発行

# おおいわ 市報

第636号

昭和48年

1月1日

発行所  
大分市役所

編集兼発行人  
大分市役所代表者  
橋本文治  
印刷所 三恵印刷株式会社

(全世帯無料配布)



桃園公園

## 豊かで住みよい福祉のまちへ

### 年頭あいさつ



大分市長

あきやま 明

市民のみなさん、あけましておめでとうございませう。輝かしい昭和四十八年の新春を迎え、みなさまのご健康を心からお祝い申し上げますとともに、平素からの市政に対するご理解とご支援に対し深く感謝申し上げます。

昨年、私はこの新年のごあいさつの中で今年も都市基盤の整備や産業の振興を促進するとともに、教育、文化の向上等をはかり住民福祉の増進に努めたいと申しあげましたが、おかげをもちまして、市民各位のご協力とご努力により町づくりの基礎となる道路整備については、国道バイパス萩原―富岡線の着工や市道、農道の舗装促進、また公共下水道工事の着工を未処理場の完成、植田公共下水道工事の着工をはじめ河川の改良、緑地の造成、さらに土地区画整理事業の推進、給水施設の拡充等、都市基盤整備のための諸事業が順調に進捗してまいりました。

一方、産業面においては基幹産業の一つである新日鉄の本格的操業開始により関連企業はも

とより地場産業も大いに振興し町は一段と活況を呈しております。

また、農業振興については永年の念願であった市内七農協の合併が実現し、全国第三位のマンモス農協となり近代農業の推進に大きな力を発揮するものと確信いたしております。

次に教育、文化の向上であります。学校教育振興のための施設の充実をはじめ、勤労青少年の研修施設として霊峰霊山に青年の家を開所するとともに、新産都の中核として躍進著しい鶴崎地区に生涯教育のための社会教育センター、鶴崎公民館を開館する等その充実のため懸命に取り組んでおります。

ご承知のとおり大分市勢は近年著しく伸展し、人口も十二月末日現在では二十九万人を越える状態となり都市化現象はさらに進むものと思われまが、これと併行して公害対策には常に万全を期し昨年にもまもなくまた生活環境の整備保全や高度な社会福祉の充実のため思いきつた施策を展開し、産業開発と社会開発との調和のため心あらたに一段の努力をいたす所存であります。

### 年頭の辞



大分市議会議長

川上 健一

新年おめでとうございませう。昭和四十八年の年頭にあたり、市議会を代表して、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

飛躍発展を続けております大分市は新春を迎えさらに大きく前進しようとしております。昨年四月待望の新日本製鉄大分製鉄所の第一号高炉の火入れにより名実ともに鉄と石油の基幹産業都市が誕生いたしました。

大分市は皆さんご承知のように人口の増加率は九州一位で、すでに二十九万人を越えようとしております。街は活気を呈し、商店街の近代化は着々と進み、市街地の再開発も軌道に乗りデパートや有名商店、それに各種金融機関の進出も著しいものがあります。更には、大規模な住宅団地も次ぎ次ぎと誕生し、生気溢れるものがあります。

しかしながら、この平和と繁栄とはうらはらに交通事故はそのあとをたたず、産業あるいは

都市公害の発生、自然環境の破壊、物価の上昇等市民の日常生活を脅かす現象も少なくありません。

このときにあたり、執行部と議会が車の両輪の如く夫々の立場においてたゆまない努力を続け山積する難問題に対処し、住みよい近代都市を築いて行かなければなりません。

どうか、大分市の皆さんのご支援ご協力をお願い申し上げます。

さて、国際情勢をみますと国民待望の日中国交回復も実現し、アジアの緊張もようやくほぐれようとしております。

私達は今こそ日本の立場を正しく認識し、七十年代前半の我が国の進むべき道を自からの手で決めなければならない重大な時を迎えております。

このように内政外交ともに激動が続いております。今日、大分市においては市議会議員の改選が二月下旬に行なわれますが、これから先の四年間大分市が大きく生まれかわろうとする過渡期にふさわしい優れた人々を選んでいただきませう。願ってやみません。

終わりに、この上も大分市の繁栄と市民の皆様のご多幸を念じまして年頭のごあいさつをいたします。

# 分市政のあゆみ

しい施設と打ち出し、多方面にわたって大きく前進しました。

写真で振り返りました。

**大分市農業協同組合が発足**  
**横尾浄水場第一期工事完成通水開始**  
**新日鉄熔鉱炉火入式**

**交通緩和のため別大電車を廃止**

**市独自の福祉施策の整備すすむ**

**市独自の福祉施策の整備すすむ**

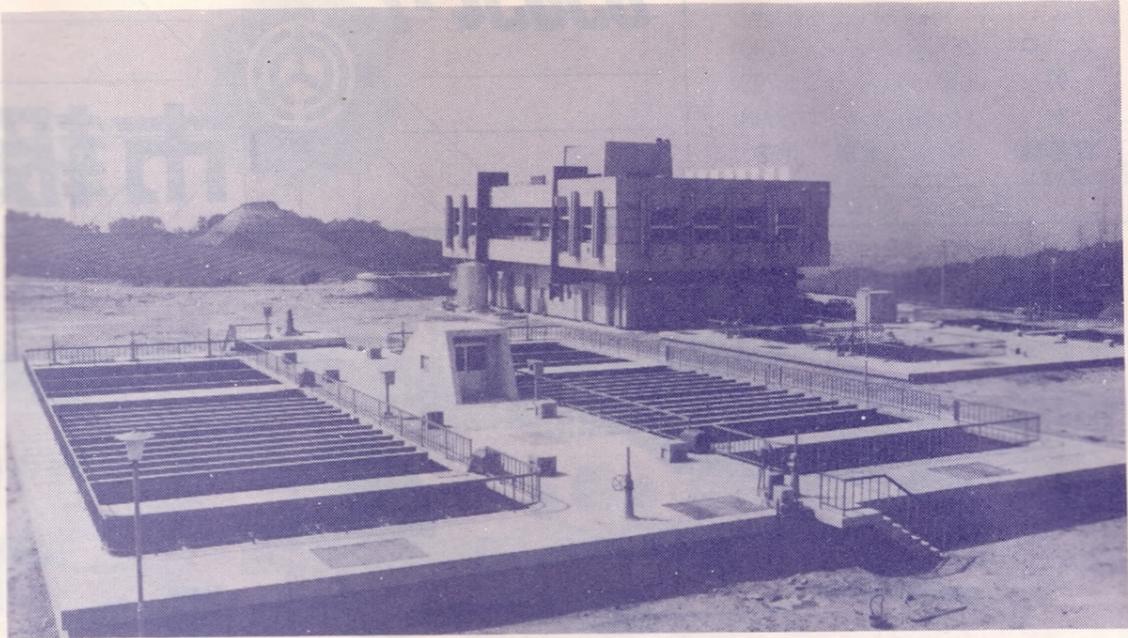
第三次水道拡張事業の一環として十五億円をかけ、給水能力一日六万トンの施設を完成させるもので、その第一期工事が完成し、おもに東部地区に一日一万吨の給水を開始した。(七月一日)

近代農家の経営基盤の拡充、強化などを図るため市内七農協が合併し、九州で最大、全国的にも第三位のマンモス農協となった。(七月一日)

二年余りの歳月と二千億円の巨費を投じて建設中の大分製鉄所の一号高炉に火が入り、いよいよ鉄と石油の二大基幹産業が動き出した。(四月十九日)

明治三十三年五月大分・別府間に全国で京都について二番目に開通して七十二年、市民の足として親まれたが激激する交通量の緩和対策として廃止された。(四月四日)

市独自で交通遺児の受手手当の支給、精神薄弱者への福祉手当の支給をはじめ、また老人の医療の無料化を図る措置とあわせて七十歳まで引下げ扶養義務者の所得制限を全廃することにした。



「水」需要に応える横尾浄水場完成 急増する水需要の伸びにこたえるため市では第3次水道拡張事業も一環として横尾浄水場を建設していましたが、昨年7月に一部完成し、鶴崎地区と大分の一部に1万トンの給水を開始しました。この浄水場が完成すると1日6万トンを給水することができます。



「霊山青年の家」↑「鶴崎公民館」→ が完成

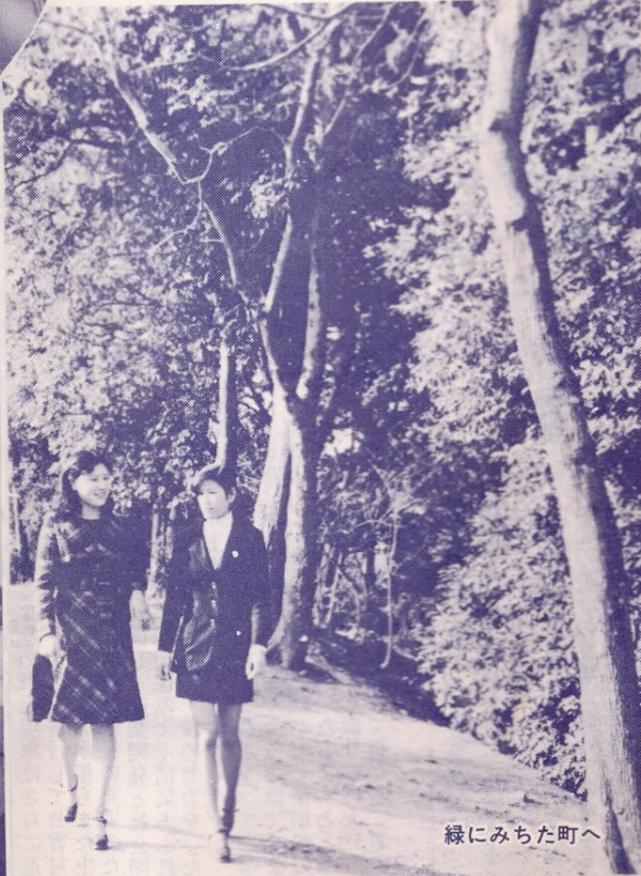
霊山青年の家では市内の勤労青少年が研修、スポーツなどを楽しみながら教養を高め、体力を増進し、心身ともに健全な社会教育人への成長の場として利用されています。一方鶴崎公民館は東部地区の文化会館的性格を有する集会の場として生花教室、演芸会などの社会教育活動ができるようになりました。この二つの施設にはそれぞれ研修室、料理実習室、茶室、図書室などが完備されています。



新日鉄1号熔鉱炉に火入る



ゴミ収集地域を拡大



緑にみちた町へ



大分地域広域市町村圏協議会発足



全国第三位のマンモス農協 大分市農業協同組合の調印式

の深いゴミ、下水の収集処理を積極的に推進しました。ゴミについては市内全域をゴミ収集地域に拡大収集も始めました。一方下水処理については昨年12月、大分市では2番目の春日下水終末処理場が完成し着手し、すでに終末処理場の建設に取り組んでいます。一方、近年宅地開発や産業開発が進むにつれ緑が少なくなるため緑化計画をまとめ、緑をいっぱいにする運動を展開することになりました。



